

豊島区教育大綱（案）

豊島区
令和6年9月



目次

第1章 基本的な考え方

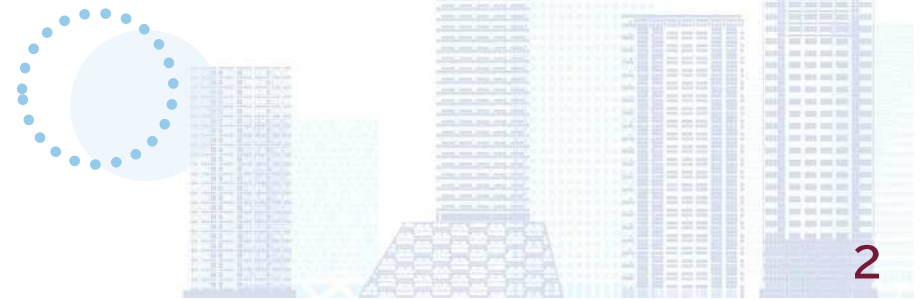
教育大綱の位置づけ.....	3
目指すまちの姿・目指す子どもの姿.....	4

第2章 方針

方針1 幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します.....	8
方針2 多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します	12
方針3 地域の魅力や芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します.....	15
方針4 子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します.....	18

第 1 章

基本的な考え方



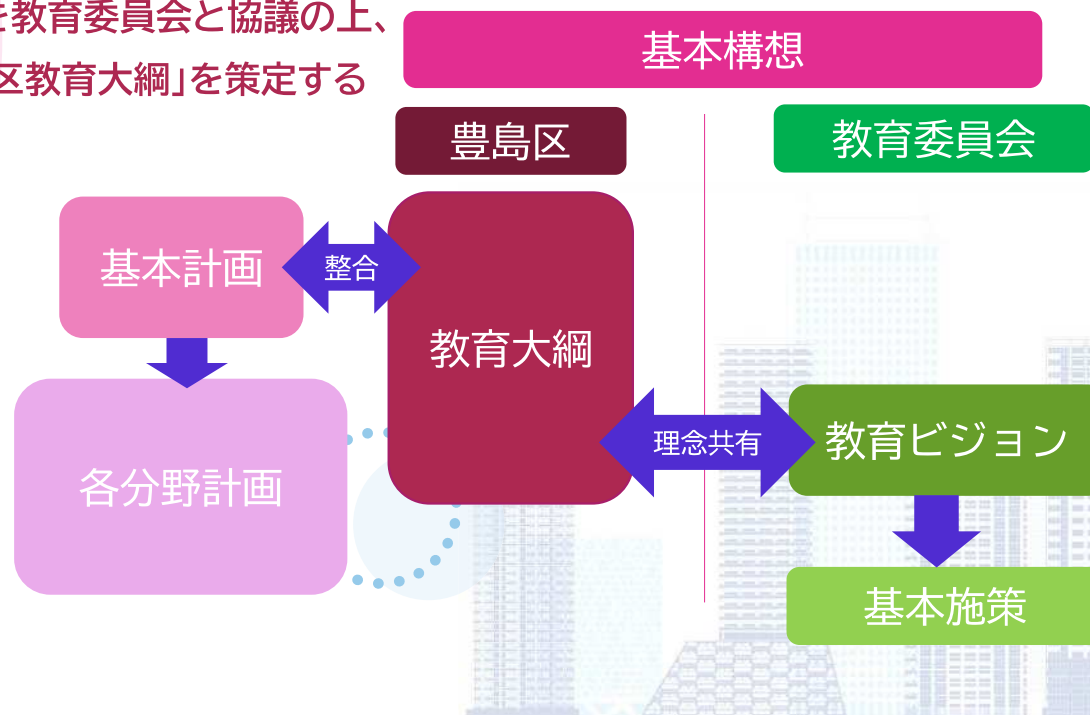
豊島区教育大綱の策定

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるもの」とされています。

豊島区では、これまで教育振興基本計画、いわゆる「教育ビジョン」を定めており、その目標や施策の根本となる方針が大綱と合致することから、「教育ビジョン」を「教育大綱」に位置づけてきました。しかし区政において極めて重要な柱である「教育」について、民意を代表する区長として何を目指していくかという方針を教育委員会と協議の上、区民の皆様にお示しする必要があると考え、新たに「豊島区教育大綱」を策定することとしました。

豊島区教育大綱の位置づけ

「豊島区教育大綱」は、区の教育施策の基本理念や施策の根本的な方針を定めるもので、「豊島区基本構想」を踏まえ、「豊島区基本計画」や他の各種計画と整合を図るとともに、区長部局と教育委員会が相互に連携・協力することで、より効果的に教育施策を推進することを目的としています。



目指すまちの姿

未来を切り拓く 笑顔で元気な “としまっ子”が育つまち

目指す子どもの姿

学校、家庭、地域、関係機関等が連携して、すべての子どもの学びを支え、「元気でたくましく、個性や能力を伸ばしていける子ども」「人とのつながりを大切にし、共に支えあう子ども」「多様な体験を通して、豊かな心を育む子ども」「地域に育まれ、地域を愛する子ども」を育てます。

第 2 章 方 針



方針

「元気でたくましく、個性や能力を伸ばしていける子ども」「人とのつながりを大切にし、共に支えあう子ども」「多様な体験を通して、豊かな心を育む子ども」「地域に育まれ、地域を愛する子ども」を育てるため、次の4つの方針に基づき具体的な取組みを推進していきます。

1

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

2

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します。

3

地域の魅力や芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します。

4

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します。

方針

No.	方針	具体的な取組み
1	幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活気に満ちた子どもを育成します。	①生涯にわたる人格形成の基礎を培う就学前教育を充実させます。
		②子どもたちの9年間の学びと育ちをつなぐ、小中連携教育のさらなる推進を図ります。
		③学ぶ楽しさと喜びを実感できる教育を推進し、子どもたちの学習意欲と学力・能力を高めていきます。
		④自然やスポーツなど多様な体験の場を通して、健康でたくましく生きていくための基盤をつくります。
2	多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します。	①子どもたちの声をしっかりと聴き、思いを受けとめ、子どもの学ぶ権利を保障します。
		②障害の有無や国籍、性別等にかかわらず、個々の人権を大切にし、一人ひとりの子どもに寄り添った教育を推進します。
		③いじめや不登校、困難な家庭環境などの状況に置かれている子どもを誰一人取り残さず、全力でサポートします。
3	地域の魅力や芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します。	①芸術鑑賞や地域の方々とのふれあいを通して、豊かな感性と社会性を育みます。
		②地域の歴史や文化について理解を深め、地域を愛する心や、地域文化の伝承・発展の担い手を育成します。
		③国際色豊かなまちの強みを活かして多文化教育を推進し、共生社会の担い手となるグローバルな人材を育成します。
4	子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します。	①学校・家庭・地域がつながり、地域全体で子どもを見守り、育てる教育活動を展開します。
		②企業や大学など、地域ネットワークを活用した、多様で特色のある教育の場を創出します。
		③計画的な学校改築・学校改修を推進し、どの学校においても快適な学習環境を提供します。
		④学校図書館の学習情報センター化と学校図書館司書の充実を図り、子どもたちが主体的に学習できる環境を整備します。
		⑤教員が心のゆとりとやりがいをもって生き生きと働ける環境をつくり、教育活動の質を向上させます。

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

具体的な取組み 1－①

生涯にわたる人格形成の基礎を培う就学前教育を充実させます。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆幼児期における教育は、子どもたちの心身の発達と健やかな成長を促すうえで、重要な意義をもっています。また、**幼児期は遊びを通して小学校以降の学びの芽生えを培い、小学校ではその学びの芽生えを更に伸ばしていくことが必要です。**

○地域人材や関係機関と連携を図りながら、乳幼児期の発達段階に応じたプログラムを提供し、子どもたちの心身の発達や人格形成の基礎を培い、小学校への円滑な接続を図ります。

○施設の種別や公立私立の別を問わず、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、同じまちで育つ子ども同士の交流や職員の合同研修など、保育園・幼稚園・小学校の交流を深めていきます。



幼稚園と近隣小学校との交流



「芸術家と子どもたち」表現活動

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

具体的な取組み 1-②

子どもたちの9年間の学びと育ちをつなぐ、 小中連携教育のさらなる推進を図ります。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

- ◆小学校から中学校への進学による学習環境や生活スタイルの変化により、中学校生活に馴染めず悩んでいる子どもたちがいます。
- ◆小学校と中学校が連携して、児童生徒、教員間の交流や地域との交流を積極的に行い、質の高い教育活動に取り組む必要があります。
- 小学校から中学校への円滑な接続を図るため、9年間を見通した「学習指導」「生活指導」を確立し、児童・生徒の成長をきめ細やかに支援していきます。
- 異学年の児童・生徒の交流や、地域との交流を通して、中学校進学への不安を解消し、中学校生活への期待を高めていきます。
- 区内2か所目の校舎一体型小中連携校の設置を契機に、全中学校ブロックで推進してきた小中連携教育の取組みを加速させます。



小中合同避難訓練



小中連携（夏休み学習教室）

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

具体的な取組み 1－③

学ぶ楽しさと喜びを実感できる教育を推進し、子どもたちの学習意欲と学力・能力を高めていきます。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆予測困難な社会に柔軟に対応し、子どもたちが自らの力で将来を生き抜いていくためには、様々な知識や技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力といった能力を高めていく必要があります。

○一人ひとりの子どもが自ら学習計画を立てたり、目標に向かって学習することにより、個人の成長に合わせた学びの習得につなげていきます。

○他者と協働した学習を進め、他者の考えや気持ちを理解し、共感する力を高めていきます。

○デジタル教科書やタブレットパソコンなどのICT機器を効果的に活用し、協働的な学びにつながる学習方法を取り入れることで、問題解決型の探究学習を進めます。

○将来を生き抜く様々な資質・能力を育むために、学習情報センターの利用促進に加え、授業改善に向けた教員研修の充実を図ります。



オーストラリア現地校とのオンライン交流



一人一台タブレットを活用した学習

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

具体的な取組み 1-④

自然やスポーツなど多様な体験の場を通して、健康でたくましく生きていくための基盤をつくります。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

- ◆生涯にわたり健康を維持していくためには、子どもたちにバランスの良い食生活や運動習慣など、心と体の健康づくりを定着させていく必要があります。
- 体育の授業において、タブレットパソコンで映像等を用いて、運動の楽しさや体の動かし方を学ばせるとともに、スキー教室などの宿泊行事を継続的に実施し、スポーツに親しむ機会を創出します。
- 移動教室など、自然の中で体を動かしたり、自然に触れる体験を学校での学びにつなげます。
- 子どもたちの健やかな成長を後押しするため、**食育**や定期健康診断・歯科健診の実施に加えて、歯磨き指導や様々な健康教育を通して、子どもたち自らが健康維持・増進に対する必要性を感じ、健康的な日常生活を送る意欲を高めていきます。



ヤゴ救出大作戦



自然体験「田植え」

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します。

具体的な取組み 2-①

子どもたちの声をしっかりと聴き、思いを受けとめ、
子どもの学ぶ権利を保障します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆子どもたちが安心して学び、将来への希望を持って自分らしく、健やかに成長するためには、子どもが自由に意見を言え、その意見が尊重されていると実感できる体験が必要です。

○学校や地域において、子どもたちが参画し、意見表明や活躍できる機会を創出していきます。

○子ども一人ひとりの思いや願いをしっかりと受けとめ、あらゆる教育活動を通して実現できるようにしていきます。

○子どもたちが主体的に学ぶ授業を展開することにより、自らの個性や能力を伸ばし、自己肯定感・自己有用感の高い子どもを育てていきます。

子どもの声を区政に反映「子どもレター」



「としま子ども会議」意見表明の様子

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します。

具体的な取組み 2-②

障害の有無や国籍、性別等にかかわらず、
個々の人権を大切にし、一人ひとりの子どもに
寄り添った教育を推進します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆障害の有無や国籍等にかかわらず、すべての子どもが自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自己肯定感をもって生きていくためには、個々のニーズに合った支援を受けることができる教育環境を確保することが重要です。

○特別な支援を必要とする子どもが安心して学校に通い、個別最適な学びを実現することができるよう、教育センターを拠点として、個別の支援や日本語指導の充実を図っていきます。

○教職員や地域の人々が多様性を理解し、子どもたちに互いの違いを知る環境を用意するなど、一人ひとりに応じた支援を行うことで、インクルーシブ教育を推進します。

○人権教育や道徳教育を充実させることで、子どもたちが様々な体験や人との関わりの中でその多様性に気づき、自分も人も大切にする心情や他者を認め合う社会性を身に付け、心のバリアフリーを実現します。



車いすバスケット体験



日本語指導教室

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します。

具体的な取組み 2-③

いじめや不登校、困難な家庭環境などの状況に置かれている子どもを誰一人取り残さず、全力でサポートします。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆一人ひとりの子どもの置かれている状況は様々です。誰一人取り残さず、すべての子どもが将来に希望を持って健やかに成長していくためには、地域全体で子どもを守り、支えていくことが大切です。

○一人ひとりのニーズを的確に把握し、困難な課題を抱える子どもに対する支援を、学校だけでなく、まち全体で行い、子どもが抱える問題の未然防止、早期発見・早期対応につなげていきます。

○様々な状況の子どもに寄り添い、関係機関や専門家との連携により、きめ細かなサポートを行うとともに、学校以外でも友達との交流や学習が行える環境を整備していきます。



VLP（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）を活用した不登校支援（心理士等との面談）



適応指導教室（柚子の木教室）
職員と利用者との面談

地域の魅力や芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します。

具体的な取組み 3-①

芸術鑑賞や地域の方々とのふれあいを通して、豊かな感性と社会性を育みます。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆芸術鑑賞は、豊かな人間性を育み、子どもたちが多様な価値観を身につける貴重な学び場となります。

◆年代を超えた人とのふれあいは、人と人とのつながりの大切さを知る機会となり、子どもたちの協調性や他人を思いやりやる心を育むとともに、地域コミュニティの形成にもつながります。

○東京芸術劇場、豊島区立芸術文化劇場等の地域の施設を利用し、音楽鑑賞教室や芸術鑑賞教室等、児童生徒が芸術・文化に触れる機会を創出することで、創造力や表現力等の豊かな感性を磨いていきます。

○学校の授業に地域人材を講師として積極的に招き、直接ふれあう中で、子どもたちが社会性を身につける機会を創出します。



としま文化の日 東京都交響楽団コンサート



目白小学校 狂言鑑賞

地域の魅力や芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します。

具体的な取組み 3-②

地域の歴史や文化について理解を深め、地域を愛する心や、地域文化の伝承・発展の担い手を育成します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆豊島区内には、ソメイヨシノ発祥の地、雑司が谷すすきみみずく、トキワ荘、長崎獅子舞など、地域に根づいた歴史・文化が数多く存在します。また、東京手描友禅、東京籐工芸、東京組紐などの時代を超えて受け継がれてきた伝統工芸があります。一方で、後継者不足などから、その継承が課題となっています。

○各教科等の授業において、地域資源を積極的に活用し、子どもたちが地域への理解を深め、地域を大切にする心を育んでいきます。

○熟練技術者による技術の実演やものづくり現場への訪問などを通して、子どもたちのものづくりへの興味・関心を高めていきます。



地域の方々とすすきみみずく作成



「長崎獅子舞」体験
豊島区指定無形民俗文化財

地域の魅力や芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します。

具体的な取組み 3-③

国際色豊かなまちの強みを活かして、多文化教育を推進し、共生社会の担い手となるグローバルな人材を育成します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆豊島区の人口の約1割が外国籍となっており、国籍も多様化しています。また、海外からも多くの方が豊島区を訪れています。豊かなコミュニティを形成していくためには、国籍、文化などの違いを互いに認め合い、多文化共生を推進できる人材を育てていく必要があります。

○英語などの多言語や他国の文化に触れる機会を充実させ、子どもたちの多文化への興味・関心を高める教育を推進します。

○区内大学等と連携し、小・中学生が留学生等と交流する機会を設け、異なる文化や価値観を認め合い、関係を構築するためのコミュニケーション能力を養うことで、国際社会の一員として活躍できる人材を育てます。



留学生との交流



立教大学 イングリッシュキャンプ

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に
適応した学校づくりを推進します。

具体的な取組み 4-①

学校・家庭・地域がつながり、地域全体で子どもを見守り、
育てる教育活動を展開します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆子どもたちが安全・安心に楽しく学校生活を送るためには、学校のみならず保護者や地域と連携し、教育活動をまち全体で展開していく必要があります。

○学校・保護者・地域が力を合わせ「地域とともにある学校」を目指すコミュニティスクールの活動を各校で展開し、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守ります。

○子どもたちへのきめ細やかなサポートや教員の負担を軽減するため、学校運営に携わる支援員・ボランティア等の配置を強化していきます。

○通学時の見守り、防犯カメラ、学校の入退室管理システムおよび学校非常通報装置等の対策を講じ、児童の安全・安心を確保します。

○子どもスキップの運営に携わる人員を十分に確保し、子どもたちが放課後に安心して過ごせる場所を確保していきます。



地域の方による登校時の見守り活動



子どもスキップの職員と子どもたち

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に
適応した学校づくりを推進します。

具体的な取組み 4-②

企業や大学など、地域ネットワークを活用した、
多様で特色のある教育の場を創出します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

- ◆学校や家庭が抱える課題が複雑化・困難化する中、子どもたちの学びを確保するためには、公民連携を推進し、教育活動の充実を図っていく必要があります。
- 区内にある企業や団体等と積極的に連携し、様々な体験や人と人とのふれあいの中で学ぶキャリア教育を充実させます。
- 地域人材や大学生の力を借りて、放課後の学習や大学のキャンパスなどでの学習を行い、学習意欲を高めていきます。
- 地域、企業および大学と連携し、子どもスキップや放課後子ども教室の充実を図っていきます。
- 中学生の部活動の機会を確保するため、部活動指導員を配置するとともに、専門性の高い外部指導者による技術指導を取り入れる等、部活動の質の向上を図りながら、地域移行を推進していきます。



企業の講師によるバスケットボール授業



放課後を活用した学習の場
(学習院大学での「としま地域未来塾」)

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に
適応した学校づくりを推進します。

具体的な取組み 4－③

計画的な学校改築・学校改修を推進し、
どの学校においても快適な学習環境を提供します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆「豊島区立小・中学校改築計画」や「豊島区学校施設等長寿命化計画」に基づく学校改築は、令和6年度時点で3分の1が完了しています。一方、未改築校については、大規模改修を実施しているものの、設備面において学習環境に課題があります。

○新たに学校改築計画を策定することにより、計画的な学校改築を推進し、学習環境の改善を図っていきます。

○改築を進めるには一定の期間を要するため、改築の時期が遅くなる学校については、長寿命化改修工事を行い、学習環境の改善を図っていきます。

○一人一台タブレットパソコンの定期的な更新とともに、ネットワーク機器やプロジェクター等の基盤整備を進め、学習環境の質の向上を図っていきます。



暑さ対策を施した室内プール



電子黒板等を備えた普通教室

方針

4

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に
適応した学校づくりを推進します。

具体的な取組み 4-④

学校図書館の学習情報センター化と学校図書館司書の
充実を図り、子どもたちが主体的に学習できる環境を
整備します。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆子どもたちの主体的・探求的な学習を確保するためには、学校改築や改修工事に合わせて、ICT環境や学習スペースなどの機能を備えた学習情報センターを整備していく必要があります。

○子どもたちの読書活動への関心や学習意欲を高めるため、学校図書館司書の配置日数増や地域図書館との連携を強化し、蔵書やレファレンスサービスの充実を図っていきます。

○子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、快適な学習環境を整備していきます。



池袋第一小学校 学習情報センター



巣鴨北中学校 学習情報センター

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に
適応した学校づくりを推進します。

具体的な取組み 4－⑤

教員が心のゆとりとやりがいをもって生き生きと働ける
環境をつくり、教育活動の質を向上させます。

◆：現状・課題 ○：今後の取組み

◆子どもたちの学びを確保し、持続可能な学校運営を構築するためには、教員の長時間労働を是正し、働き方改革を継続的に進め、教員が心身ともに健康で生き生きと働ける環境をつくることが重要です。

○教員が子どもたちと向き合う時間や、授業準備の時間を十分に確保することができるよう、スクールサポートスタッフなどの外部人材の参画、ICTの活用をこれまで以上に進め、教員が抱える心身の負担を軽減し、質の高い教育活動につなげます。

○教員の働き方改革の取組みを保護者や地域、関係団体の方々にご理解・ご協力をいただき、地域一丸となって働き方改革を進めていきます。



児童と向き合う小学校教員



生徒と向きあう中学校教員

豊島区教育大綱（案）

令和6年9月

発行 豊島区

〒171-8422 東京都豊島区南池袋2-45-1

教育大綱新旧対照表

資料 3

変更点 1
事務局判断にて修正

「本物の」と表現することについて、「本物」とはなにかといったご意見をいただいたため、事務局内で再検討した結果削除することとした。

旧
方針 3 地域の魅力や 本物の 芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します



新
方針 3 地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します。

変更点 2
教育ビジョン検討委員会幼児教育部会にて頂いたご意見

「小一プロブレム」の記載について、小学校への円滑な接続を目指すことは「小1プロブレム」の解決が第一に来るわけではないため記載について検討が必要ではないか

方針 1 幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。
具体的な取組み 1－①
生涯にわたる人格形成の基礎を培う就学前教育を充実させます。

旧
◆幼児期における教育は、子どもたちの心身の発達と健やかな成長を促すうえで、重要な意義をもっています。 ◆小学校入学後に“学習に集中できない”“教員の話聞けず”に授業が成立しない”など、学級がうまく機能しない、いわゆる「小1プロブレム」が発生しています。 ○地域人材や関係機関と連携を図りながら、乳幼児期の発達段階に応じたプログラムを提供し、子どもたちの心身の発達や人格形成の基礎を培い、小学校への円滑な接続を図ります。 ○施設の種別や公立私立の別を問わず、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、同じまちで育つ子ども同士の交流や職員の合同研修など、保育園・幼稚園・小学校の交流を深めています。



新
◆幼児期における教育は、子どもたちの心身の発達と健やかな成長を促すうえで、重要な意義をもっています。 <u>また、幼児期は遊びを通して小学校以降の学びの芽生えを培い、小学校ではその学びの芽生えを更に伸ばしていく必要があります。</u> ○地域人材や関係機関と連携を図りながら、乳幼児期の発達段階に応じたプログラムを提供し、子どもたちの心身の発達や人格形成の基礎を培い、小学校への円滑な接続を図ります。 ○施設の種別や公立私立の別を問わず、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、同じまちで育つ子ども同士の交流や職員の合同研修など、保育園・幼稚園・小学校の交流を深めています。

変更点3

パブリックコメントにて頂いたご意見

私は義務教育に「コミュニケーションの本質」を学ぶ機会を設けていただきたいと強く感じております。
自己肯定感・自己有用感の高い子どもが育つのはもちろん、教員の心理的安全性も確保できると確信しております。

方針1 幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

具体的な取組み 1ー③

学ぶ楽しさと喜びを実感できる教育を推進し、子どもたちの学習意欲と学力・能力を高めていきます。

旧
◆予測困難な社会に柔軟に対応し、子どもたちが自らの力で将来を生き抜いていくためには、様々な知識や技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力といった能力を高めていく必要があります。
○一人ひとりの子どもが自ら学習計画を立てたり、目標に向かって学習することにより、個人の成長に合わせた学びの習得につなげていきます。
○デジタル教科書やタブレットパソコンなどのICT機器を効果的に活用し、協働的な学びにつながる学習方法を取り入れることで、問題解決型の探究学習を進めます。
○将来を生き抜く様々な資質・能力を育むために、学習情報センターの利用促進に加え、授業改善に向けた教員研修の充実を図ります。



新
◆予測困難な社会に柔軟に対応し、子どもたちが自らの力で将来を生き抜いていくためには、様々な知識や技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力といった能力を高めていく必要があります。
○一人ひとりの子どもが自ら学習計画を立てたり、目標に向かって学習することにより、個人の成長に合わせた学びの習得につなげていきます。
<u>○他者と協働した学習を進め、他者の考えや気持ちを理解し、共感する力を高めていきます。</u>
○デジタル教科書やタブレットパソコンなどのICT機器を効果的に活用し、協働的な学びにつながる学習方法を取り入れることで、問題解決型の探究学習を進めます。
○将来を生き抜く様々な資質・能力を育むために、学習情報センターの利用促進に加え、授業改善に向けた教員研修の充実を図ります。

変更点4

パブリックコメントにて頂いたご意見

食育について記載がありません。

方針1 幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します。

具体的な取組み 1ー④

自然やスポーツなど多様な体験の場を通して、健康でたくましく生きていくための基盤をつくります。

旧
◆生涯にわたり健康を維持していくためには、子どもたちにバランスの良い食生活や運動習慣など、心と体の健康づくりを定着させていく必要があります。
○体育の授業において、タブレットパソコンで映像等を用いて、運動の楽しさや体の動かし方を学ばせるとともに、スキー教室などの宿泊行事を継続的に実施し、スポーツに親しむ機会を創出します。
○移動教室など、自然の中で体を動かしたり、自然に触れる体験を学校での学びにつなげます。
○子どもたちの健やかな成長を後押しするため、定期健康診断・歯科健診の実施に加えて、歯磨き指導や様々な健康教育を通して、子どもたち自らが健康維持・増進に対する必要性を感じ、健康的な日常生活を送る意欲を高めていきます。



新
◆生涯にわたり健康を維持していくためには、子どもたちにバランスの良い食生活や運動習慣など、心と体の健康づくりを定着させていく必要があります。
○体育の授業において、タブレットパソコンで映像等を用いて、運動の楽しさや体の動かし方を学ばせるとともに、スキー教室などの宿泊行事を継続的に実施し、スポーツに親しむ機会を創出します。
○移動教室など、自然の中で体を動かしたり、自然に触れる体験を学校での学びにつなげます。
○子どもたちの健やかな成長を後押しするため、 <u>食育や</u> 定期健康診断・歯科健診の実施に加えて、歯磨き指導や様々な健康教育を通して、子どもたち自らが健康維持・増進に対する必要性を感じ、健康的な日常生活を送る意欲を高めていきます。

変更点5

パブリックコメントにて頂いたご意見

1	素案には「ジェンダー」「男女平等」「性的少数者」「性教育」などに関する文言が一つも入っていない。教育基本法第2条三項に教育目標として「男女の平等」が掲げられているが、豊島区はこの観点を軽視しているのか。明確に文言に盛り込むべきと考える。
2	若年層は4人に1人が外国人の現状で、彼らの学ぶ権利は保障されているのでしょうか。
3	インクルーシブ教育システムのことが一文字も乗っていません。 他同様の意見が2件
4	教員だけでなく、学校現場で働くすべての大人に、'多様性を認め、違いを個性として尊重する'姿勢を育てる取り組みを区の教育施策の重要項目に位置付けてほしいです。

方針2 多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します。

具体的な取組み 2-②

障害の有無や国籍等にかかわらず、個々の人権を大切にし、一人ひとりの子どもに寄り添った教育を推進します。

旧
◆障害の有無や国籍等にかかわらず、すべての子どもが自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自己肯定感をもって生きていくためには、個々のニーズに合った支援を受けることができる教育環境を確保することが重要です。 ○特別な支援を必要とする子どもが安心して学校に通い、個別最適な学びを実現することができるよう、教育センターを拠点として、支援の充実を図っていきます。 ○日頃から「違いは個性」であることを示し、自分も人も大切にすることを養います。また、人権教育や道徳教育を充実させ、様々な体験や人との関わりの中で、その多様性に気づき、他者を認め合う社会性を育み、心のバリアフリーを実現します。



具体的な取組み 2-②

障害の有無や国籍、性別等にかかわらず、個々の人権を大切にし、一人ひとりの子どもに寄り添った教育を推進します。

新
◆障害の有無や国籍等にかかわらず、すべての子どもが自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自己肯定感をもって生きていくためには、個々のニーズに合った支援を受けることができる教育環境を確保することが重要です。 ○特別な支援を必要とする子どもが安心して学校に通い、個別最適な学びを実現することができるよう、教育センターを拠点として、 <u>個別の支援や日本語指導の充実</u> を図っていきます。 <u>○教職員や地域の人々が多様性を理解し、子どもたちに互いの違いを知る環境を用意するなど、一人ひとりに応じた支援を行うことで、インクルーシブ教育を推進します。</u> <u>○人権教育や道徳教育を充実させることで、子どもたちが様々な体験や人との関わりの中でその多様性に気づき、自分も人も大切にすることを養い、他者を認め合う社会性を身に付け、心のバリアフリーを実現します。</u>